



目次

1. 巻頭言
2. 平成30年度 開放型登録医療機関紹介
3. 比嘉利信前院長 退職記念祝賀会
4. 副院長就任のご挨拶
5. 4階病棟のご紹介
6. 新任のご挨拶
7. 編集後記

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。



巻頭言 「歴史と信頼」という財産

2018年4月に院長を拝命した塩屋です。

私は2000年9月に旧日南療養所から赴任し、18年が経過しました。副院長には2006年4月に昇任しましたので12年が過ぎました。前任の比嘉利信院長(現名誉院長)に次いで7番目の院長になります。

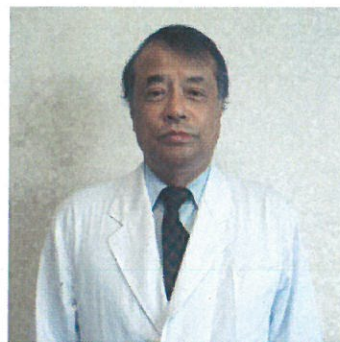
私が院長になって最初に思ったことは、この病院の「歴史と信頼」という財産です。ある開放型委員の先生にお会いした際、自分も小さい頃この病院の敷地で遊んだと言われました。この病院の価値は「時間が保証している」のだという感覚を持ちました。その有り難みをひしひしと感じました。

当院の歴史を振り返りますと、①傷兵の救済②国民病とされた肺結核治療③高度成長期の小児喘息医療④福祉制度と共に始まった筋ジス病棟⑤難病の人工呼吸器装着患者への医療提供と、常に時代の要請に応え、地域を守り、社会の医療破綻を防いできたという足跡が見えて来ます。

現在もまた⑥脊椎疾患治療⑦再発肺癌の化学療法⑧児童精神科医療を開始し、時代に即した新たな地域の保護的医療を展開しています。

私はこの歴史ある宮崎東病院の院長になりましたことを誇りに思い、同時にその責任の重さに身が震えます。医療は聖職だなあと思います。

これまでの院長は皆さん、修道士の様でした。院長としてこの聖域を守ろうと思います。



院長
塩屋 敬一

平成 30 年度 開放型登録医療機関紹介

南宮崎ヤマモト腎泌尿器科

院長 山本 智将 先生

〒880-0916

宮崎市大字恒久 1383-1

TEL : 0985-71-2888 FAX : 0985-71-3034

標榜診療科：泌尿器科、人工透析内科、総合内科



南宮崎ヤマモト腎泌尿器科の山本智将です。平成 29 年 4 月 17 日におおふじクリニックをされていた場所で開業いたしました。ちょうど 1 年が過ぎたところです。標榜科目は泌尿器科・人工透析内科・総合内科です。泌尿器科では外来診療・各種検査(X-p、CT、膀胱鏡、ウロフロメトリー、など)、日帰り手術(朝 6 時に来院していただき手術、夕方に帰宅していただきます。前立腺針生検、TUR 手術、内シャント手術、PTA など)を行っております。人工透析内科は開院当時はコンソール 10 台で血液透析を行っていましたが、多数の透析患者さんに来院いただき平成 30 年 4 月 1 日現在、22 台のコンソールを導入しております。熟練したスタッフが多いので、ありがたいことに患者さんの安心度や満足度は高いようです。宮崎市内の片道 30 分圏内の送迎は透析患者さん、外来診察患者さんに関わらず希望される方にはさせていただいております。(ご希望の患者さんは当院受付にご相談ください)



病院外観



院内の様子



患者さんからの贈り物の
似顔絵 (左)、消しゴムスタンプ (右)

透析患者さんで遠い方は新富町、西都市からいらっしゃっています。当院を気に入っていただき通い続けていただいております。総合内科では、以前鹿児島島の離島で約 10 年間診療させていただいていた経験から糖尿病・脂質異常症・高血圧などの生活習慣病、慢性腎臓病、風邪、インフルエンザなどの診察、予防接種(インフルエンザ等)も行っております。また、週 1 回毎週木曜日の 14 時から 17 時まで専門の技師先生に来ていただき、頸動脈・腹部・心臓超音波を行っておりますので、患者さんには大変喜ばれております。本来は手術患者さんや急病患者さんのために有床診療所でやっていきたいのですが、このごろはベッドをたやすく持てないのが現状です。透析患者さんが急変されたときに透析設備のある入院施設様を探すのが大変な時があります(満床など)。受け入れて頂いている病院様にはいつも感謝しております。国立病院機構宮崎東病院様とは地域医療連携室を介して急変患者さんの受け入れをお願いしたいと考えております。南宮崎ヤマモト腎泌尿器科を末永くよろしくお願いいたします。

※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成 16 年 9 月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師(開業医)と宮崎東病院医師(主治医)とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。

現在、102 医療機関の先生方にご登録いただいております。

比嘉利信前院長 退職記念祝賀会

今年3月末日をもちまして比嘉利信院長が退職されました。心さみしい限りですが4月21日に、その退職祝賀会が開催されました。現職員はもとより、遠方から歴代の院長、事務部長、企画課長、看護部長の方々が多数ご出席頂き盛況のうちに執り行われました。そのなかで、先生は十余年の在任期間を3つのstageに分けることができると言っておりました。第1は赤字からの脱却のstageで病棟の集約、それに伴う人員削減などに取り組まれた。第2は病棟建て替えのstageで本部との交渉で様々な障害があり何とか乗り越えることができた。そして第3は児童精神科病棟の立ち上げのstageで、聞けばこれも様々なご苦労があったようです。こうして振り返ってみると、大きな業績を残した先生であることを改めて思い知らされた気がいたします。

これからは、名誉院長として当院外来で診療にあたることになりますが、一方で、現在対外的に引き受けておられる役職を利用し、行政や医師会などのパイプ役になればとも申しておりました。何と申しますか、当院への愛情と言いますか熱いものが感じられます。

ともあれ、長きにわたり院長という重責を果たされました。心からお疲れさまでしたと申し上げたい気持ちです。



内科医師
谷岩 公博



副院長就任のご挨拶

この度、副院長を拝命いたしました枝川です。私は当院が独立行政法人となりました2004年から14年間、呼吸器外科部長として勤務してまいりました。長く愛して精進して参りました本院で新たな任を担うこととなり、今まで以上に病院業務に意欲を燃やしているところです。

当院は急性期医療だけでなく、結核・神経難病等の政策医療、特殊診療科である児童精神科もあり、その機能は多岐にわたっております。そのため、医局・看護部・事務部・メディカル、各部門からの情報収集をスムーズに行なえる院内連携の構築が必要と考えます。目下“敷居の低い、何でも話せる副院長室”を目指して模索しております。

院外目標としましては、当院の特色を生かしながら地域の医療機関と円滑で強固なネットワークを構築すべく、真心と足を使い努力して行く所存です。来院されます全ての患者様と職員の皆様のために、より良い病院となりますよう、今後とも変わらぬ皆様のご指導・ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



副院長
枝川 正雄

4 階病棟のご紹介

4 階病棟は障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス「療養介護」を提供する病棟として院内での役割を担っています。

スタッフ総数 50 名と、元気・若さ・パワー溢れる病棟です。主に筋ジストロフィー、ALS 等の神経・筋難病の患者様が療養生活を送られています。ほとんどの患者様が長期入院のため医師・看護師・療養介助員・看護助手・指導員・保育士・理学療法士・作業療法士といった多職種で協働し、余暇活動や季節のイベント、院内散歩といった患者様の生きがい・生活の質を高められるように取り組んでいます。また患者様のほとんどが ADL 全介助で、人工呼吸器管理・経管栄養を行っており高度な医療・看護技術が必要な病棟ですが、患者様ひとり一人が安全で安心な入院生活が送れるようスタッフ全員で取り組んでいます。



4 階病棟看護師長
井上 和代



新任のご挨拶

前回 2013 年 4 月に東病院を離れてから、県立宮崎病院に 3 年間、日向の千代田病院に 2 年間勤め、5 年ぶりに還ってきました。懐かしく思うと共に、新しく建て変わった病院で働けることに心が弾みます。

呼吸器内科を担当致します。どうぞ、よろしくお願い致します。



呼吸器内科医師
白濱 知広

編集後記

五月は別名「菖蒲月（しょうぶづき）」と言われるようで、たくさんの花が見頃を迎える季節です。あやめ、すずらん、つつじなど、色も香りも豊かな花々が咲いている様子を目にされた方も多いのではないのでしょうか。これからの六月は梅雨に入り、鬱陶しい季節となりますが、あじさいの花が見頃を迎えます。日本の四季や花々は素晴らしい。NEWS 宮崎東をいつもご愛読下さり、ありがとうございます。
(編集委員 M)